

# 境 漁 港

## 特定漁港漁場整備事業

平成26年度公共事業評価委員会(第5回)  
概要説明資料

# 1 位置図



## 2 事業の目的（第1回資料）

### ① 災害に強く安全な地域づくりの推進

- 境漁港はH12.10に発生した鳥取県西部地震において陸揚岸壁等の漁港施設が被災を受け、漁業活動に大きな影響があった。この地震の経験や東日本大震災の事例を踏まえ、災害発生後に速やかに陸揚げが再開できるよう陸揚岸壁の耐震化を行う。



鳥取県西部地震で被災した境漁港



東日本大震災で被災した漁港(宮城県石巻市)

## 2 事業の目的（第1回資料）

### ② 水産物の安定的な提供に対応できる力強い水産業づくりの推進

- 消費者に安心・安全な水産物を提供できるように、水揚げされる水産物の高度衛生管理を強化し、各種漁業に対応した、高度衛生管理型の荷さばき所の整備に併せ、陸揚岸壁及び泊地の整備を行う。



荷さばき所の混雑状況



陸揚げの順番待ちをする漁船



# 3 事業概要図（第1回資料）

## 【凡例】

- 事業評価対象施設
- 事業評価対象外施設

事業箇所：境港市昭和町

計画工事種目：

-6m泊地浚渫	7,300㎡
-6m岸壁(新設)	313m
-6m岸壁(耐震改良)	157m
-6m岸壁(増深改良)	245m
道路	485m
用地(人工地盤)	12,000㎡
清浄冷海水取水施設	1式
荷さばき所	1式

事業費：120億円 ※評価対象外施設を含む

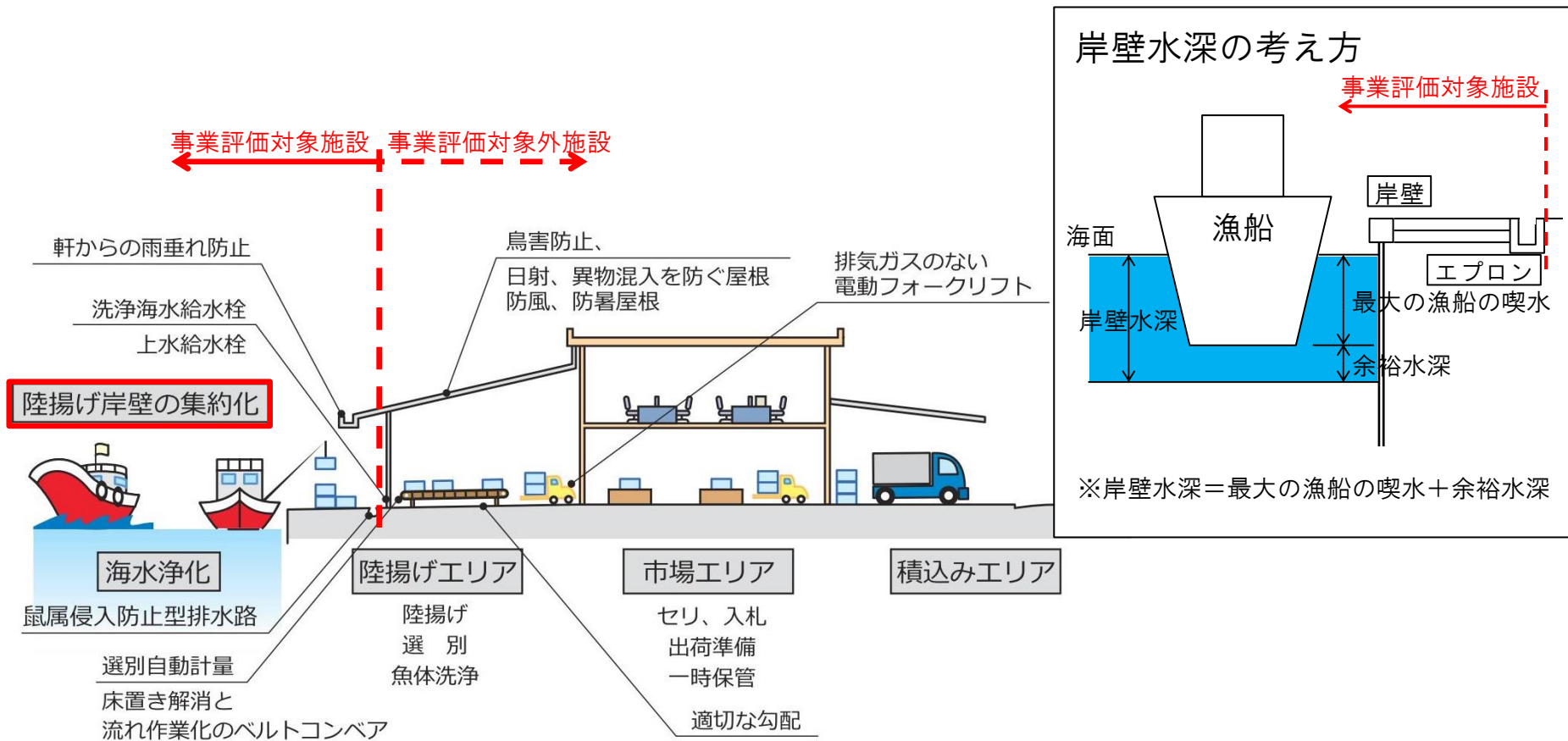
費用便益比：B/C=1.30 ※事業費に同じ

事業期間：平成26年度～平成35年度

通常は屋上駐車場として利用  
震災時に避難場として利用



# 4 高度衛生管理型漁港の整備について

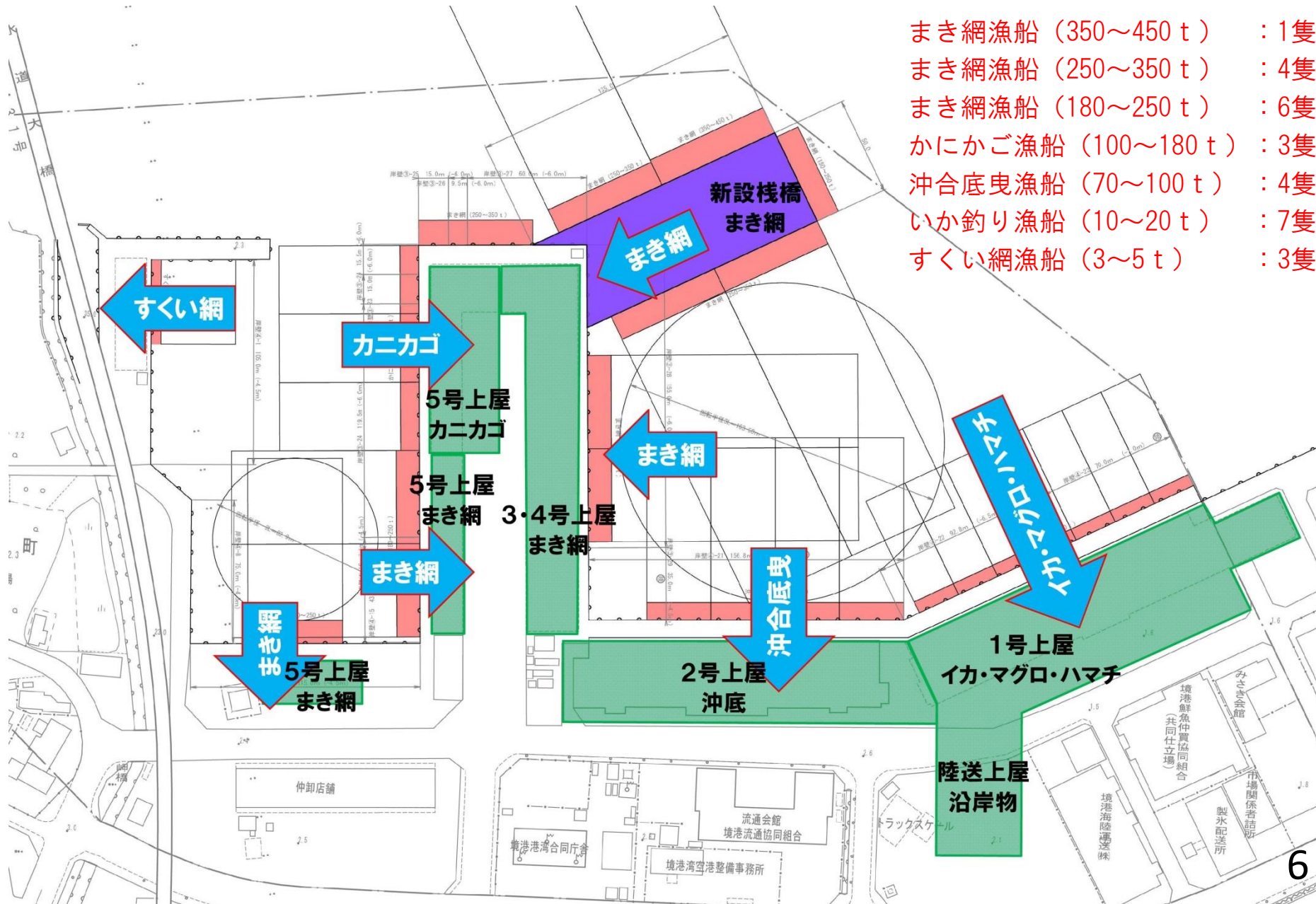


- 漁業種別に陸揚げ岸壁を集約化し、漁獲物の流れを一方向化し、人・車両等からの危害の混入を防ぐ。



# 5 漁業種別の漁船の配置計画について

- まき網漁船 (350~450 t) : 1隻
- まき網漁船 (250~350 t) : 4隻
- まき網漁船 (180~250 t) : 6隻
- かにかご漁船 (100~180 t) : 3隻
- 沖合底曳漁船 (70~100 t) : 4隻
- いか釣り漁船 (10~20 t) : 7隻
- すくい網漁船 (3~5 t) : 3隻



# 6 漁業種別の漁船の陸揚げ状況について



まき網漁船の陸揚げ  
(アジ・イワシ)



まき網漁船の陸揚げ  
(マグロ)



まき網漁船で混雑する岸壁



かにかご漁船の陸揚げ  
(ベニズワイガニ)



いか釣り漁船の陸揚げ  
(イカ)



沖合底曳き漁船の陸揚げ  
(松葉ガニ等)



# 7 施設の構造比較【-6m岸壁（新設）】

## 【整備目的】

高度衛生管理型漁港の整備に伴い、漁業種別毎に専用化されるまき網漁船用の陸揚げ岸壁を整備する。



# 7 施設の構造比較【-6m岸壁（新設）】



3・4号岸壁（現況写真）



# 7 施設の構造比較【-6m岸壁（新設）】

	RC床版栈橋工法	PC床版栈橋工法	鋼製ジャケット式栈橋工法
工法説明	水中に鋼管杭を打設し、その上部に鉄筋コンクリート(RC構造)床版を設置する工法である。	水中に鋼管杭を打設し、その上部にプレストレストコンクリート(PC構造)床版を設置する工法である。	水中に鋼管杭を打設し、鋼製トラス構造と鋼製上部工を一体化した鋼製ジャケットを既存の杭に被せる工法である。
標準断面図			
構造的性	杭間隔は5m程度が限界となるため、杭本数が多くなり、床版も厚くなる。	杭間隔を広くすることができ、杭本数を少なくなり、全体が最もスリム化される。	杭と上部工の一体性に優れ、杭本数を少なくすることが、全体がスリム化される。
施工性	全てが海上作業となるため、海象条件の影響を受けやすく、杭本数が多くなる分、工事期間は比較的長い。	PC桁は工場製作であり、また杭本数が少なくなるため、工事期間は比較的短い。	ジャケット部、桁を工場製作すること、また杭本数も少ないため、工事期間は比較的短い、現場での杭の打設精度を要する。



# 7 施設の構造比較【-6m岸壁(新設)】

	RC床版栈橋工法	PC床版栈橋工法	鋼製ジャケット式栈橋工法
維持管理	杭の本数が多いため、点検及び腐食対策の手間が最も多い。	杭本数が少なく、鋼材の使用量が少ないため、点検及び腐食対策の手間は最も少ない。	杭本数は少ないが、ジャケット等鋼材の使用量が多いため、点検及び腐食対策の手間は比較的多い。
費用	23,000千円/m	22,000千円/m	25,000千円/m
評価	×	○	△
コメント	施工性、維持管理面で最も劣る。	経済性、施工性、維持管理面で優れている。	経済性では劣るが、施工性に優れている。 既設の2号岸壁でも採用された工法である。